

赤字から黒字化した事例

ワンダーセンス(岡山県笠岡市:A型) ワズゴール(岡山県笠岡市:A型)

- R元赤字→R5:155点(ワンダーセンス)、140点(ワズゴール)
- 利用者像:精神・知的・身体
- 改善策
 - 単価が高く、今後見通しがモテそうな、ホテル・旅館の客室清掃・病院など各種施設の清掃業務に絞り込んで営業を開始し、新規獲得
 - 赤字状態から共同受注窓口を設立(黒字化により廃止)。利用者及び職員の意識改革と業務整理に取り組み黒字化達成

安藤さん(東京)

- R4黒字化
- 利用者像:精神・知的等
- 改善策
 - 徹底した支援者人時売上の見直し→高付加価値な仕事の営業
 - 頻繁に個別面談を実施し、個人のコンディションを確認。毎年一定数の一般就労を実現。



典型モデル事例

M(三重)

- H26:15,064円→R5:36,500円
- 利用者像:知的中心
- 課題
 - ・ コロナ禍前(R元年)にクッキー専門店をオープン
 - ・ コロナ禍で店頭販売が厳しくなった
- 改善策
 - ・ 訪問販売に販路を展開し、H26年度5,688→R6年度36,000千円に販売拡大
 - ・ 業務量拡大に伴い、支援の質も高く、近隣の特別支援学校からの要望も増え、R5年4月にB型事業所を新規設立(20人定員)

アシストプラス(茨城)

- R元:8,150円→R5:36,734円
- 利用者像:精神中心
- 改善策
 - ・ 低工賃を打破するため、単価の高い未経験のハウスクリーニング業に着手。利用者が取り組めるようマニュアルを作成。
 - ・ 生産性が向上したため、不動産会社に営業。不動産会社と連携しながら、退居後のクリーニングの受託を拡大。
 - ・ R6年度はパソコン作業(メール代行・家具デジタルカタログ)も売り上げに貢献。



農福連携

佐賀県(佐賀北部農福連携推進ネットワーク)

- 佐賀市の共同受注機能※と佐賀市北部のJAが連携し、モデルを実施 ※(N)ふくしねっと:19事業所
- JAが産地の労働力確保に取り組んでいたことから、共同受注機能とJAが連携し、佐賀北部農福連携地域協議会を立ち上げた
- 佐賀北部農福連携推進ネットワークをモデルに、R4佐城地区(佐賀市、荻氏、多久市)、R5唐津市に地域協議会をエリア展開
- 利用者は、ほうれん草の調整作業等を行うなど、生産活動の幅が広がった。



会計知識

うみう(茨城県常陸太田市:B型)

- R元:約14,000円→R5:21,712円
- 利用者像:知的中心
- 改善策
 - 請負の単価計算を徹底し、利用者の強みを活かした結果、生産数と能力が向上。
 - R6年度は請負先内で専属作業を獲得。
 - R6年4月のスタート時には時間給1,200円ペースで行っていたが、R7年3月現在、時間給2,000円ペースまで生産数が向上。

見守り安シール



介護老人施設〇〇 QRコードを読み込んでください



部材と組み立てたものを入れる箱を近くに設置
動かないで作業するため効率アップ

地場産業の継続

富士北麓聖ヨハネ支援センター(山梨県富士吉田市:B型)

- R元14,939円→R5年17,882円
- 利用者像:知的中心
- 地域との結びつきによる安定経営
 - ・ 富士山が近く、近隣は観光地である。
 - ・ 観光名所の一つの河口湖に富士山パノラマロープウェイがあり、そこに「かわらけ投げ」という粘土を素焼きにした盃(かわらけ)を的に投げ当て、神様に諸願成就するものがある。
 - ・ 観光地の盛り上がりにあわせて、その個数が足りず、製造を受注生産している。



優先調達

ミラクル5(佐賀県佐賀市:B型)

- 佐賀県が実施する防災対策(緊急救命72h)に関する調達事案があった
- その業務を、優先調達として受注するよう調整
- 優先調達の概要
 - ・ 東京の企業が、佐賀県産米を90%、農福JAS認証米を10%使用し、レトルト食品(おかゆ)を開発。
 - ・ ミラクル5が、おかゆに同封するスプーン、塩入小袋、説明書を封入し、段ボールに入れる作業を実施。
 - ・ 利用者の従事する仕事の幅が広がり、工賃向上にも繋がった。



ICT活用

まめのき(東京都豊島区:A+B型)

- 利用者像:精神中心
- 課題
 - 利用者情報を担当職員が個々で保管。結果、事業所して全体を把握できない状態だった。
- 改善策
 - 支援記録ソフトを導入。
 - 記録や職員間の情報共有等に要していた時間を削減
 - 73時間の削減により人件費84,810円/月分の節約効果
 - 残業が減少したことで工賃向上に取り組む時間を確保でき、新規請負業務の獲得ができた。
 - 職員の精神的な余裕にも繋がった。

